

神様と共に歩んでいる人たち、またこれから神様とともに歩もうとしている人たちへ。あなたが困難に遭うとき、またつまずき倒れたとき、そばで助けてくれる人はいますか？

今日はサムエル記からダビデとヨナタンの生き方をおして私たちが信仰をもってどう生きていくかを神様から受け取っていきます。

このサムエル記にサウル王とダビデのことが記されています。イスラエルの民が自分たちをさばく方として神様でなく人を王として求め、民の声を聞き入れた神様が初めに選んだ王がサウルです。サウルの息子にはヨナタンがいました。一方ダビデはサウルが主の御声に聞き従わず主の前に罪を犯したため、次に王として神様に選ばれた人でした。普通に考えればヨナタンが父サウルの後継者として王になるはずでした。しかし、ヨナタンは王位よりもダビデの事を愛する人でした。ダビデもまたヨナタンのことを心から愛し、サウルのことも神様に油注がれた人として愛し、いつも仕えてきました。

そんなある日、ダビデがあらゆる場所で戦いに勝利していたとき、サウルは人々が「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った」と言っているのを耳にします。ここでサウルはダビデに対し疑いの目を持つようになります。嫉妬し、ダビデのすることを何でも悪いほうにとらえ決めつけていったのです。これは私たちにもいえることで、自分にとってよくないことが起こると、人は時として真実を見ようとせず疑いの目で見てしまうことがあります。しかしダビデは『私はいつも私の前に主を置いた。』と詩篇にあるように、主を前に置き真実を見て、その相手を楽しみました。私たちもダビデのように神様、イエス様の目線で物事を判断していかなければいけません。また私たちは一度嫌なことがあると一生こうなんだ、だめなんだと決め付けてしまうことがあります。しかし聖書で教えているのは創世記にも『タがあり朝があった』とあるように、「一生変わらないなんてことはない！」ということです。時に自分の足りない部分を経験させられることがあります。そして失敗することもあります。しかし、神様に従って歩もうとしている人、神様に目を向けようとしている人には神様は赦しを与え、必ず脱出の道を備えてくださいます。結果すべてを益としてくださいます。聖書に出てくる神様に心を向けた人たちは皆そうでした。世の人は嫌なことがあると人のせいにし、失敗からなにかを学ぼうとはしません。しかし私たちクリスチャンは違います。何かが起きたとき、特に自分にとって良くないことが起きたときは学ぶチャンスだということを知っているのです。ですから言い訳する前に学ばなければいけません。神様に対し「しもべはここにいます。どうか語ってください」と言えるならば必ず神様は答えをくださるのです。

ダビデはいつも神様を見上げていました。そこにヨナタンがいたのです。ヨナタンとは「神は与えたもう」という意味です。ヨナタンは神様の前にいつも心正しい人であり、名前のとおりダビデに助けを与えるために生まれてきました。ダビデとヨナタンは互いに尊敬し愛し合い、ヨナタンはいつもダビデを助けるために、自分の利権を求めず何をすべきか神様に聞いていたのです。

このように私たちも神様にとともにいるならば、どんなことがあっても必ず助けが与えられるのです。ですからあなたがもし今、試練に遭っているならば、なぜこのことを与えられているのか神様に心を向けて考えなければいけません。そして言い訳をせず、神様の時を信じて歩むことが大切です。詩篇121にあるように、あなたはなにがあっても守られます。しかし、神様の時が来るまではどんなに正当なことを言ってもどんなに正しいことをしてもだめな時があります。そのような時はただ神様の前に正義を尽くし、祈っていきましょう。また、もしあなたが同じ問題でいつも悩んでいるならば、同じことが起きる前になぜそのことが起きるのかを考えなければいけません。自分の立場が悪くなるうとも良心に従い、今のことばかりを考えずいつも神様を見上げて物事全体をみていかなければいけません。

イエス様の命がけの愛を伝えていくために、あなたにせよといわれていることを命がけで真剣にやって行きましょう。それだけでなく、勝利を得るための武器を持ち、やり方を考えて行きましょう。神様に行けと言われたら行く。でもその方法はあなたが考えなければいけません。ダビデも神様からやれといわれたときその方法を考えました。もし今までやれといわれてやったのに失敗を繰り返しているならその方法が誤っているのです。みことばをしっかりと握り、同じ方法でなくほかの方法で良くなるまで挑戦し続けて行きましょう。

ダビデをおして私たちが学ぶこと。神の助けは、**1. 神の主権を認めることで・・・**すべてが神様の主権であることをダビデは学びました。誰かがあなたを変えることはできません。試練に遭っているなら神様がそれを赦されていることを知らなければいけません。神様の時であると信じて、神様がせよということを完成させ次へ進んでいきましょう。**2. 主の時と主の判断にゆだねると・・・**時を待たなければいけません。解決される時はされ、されないときはされないのです。しかし、解決されるように行動することはできます。ですからなぜそのことが起こったを考え、なにが必要か考えなければいけません。そして、神様の愛を伝えるのであれば今、何を語れといわれているか神様に聞かなければいけません。そして何か語ってやろうと思うのではなく、神様の時が来るまでただ自分が受けた恵みを証し続けましょう。**3. すべては益と感謝すると・・・**今あなたは置かれている状況をよかったと思っていますか？自分がどのような状況にあっても乏しいことがないのは感謝することです。もしあなたが言い訳したり逃げたりしてその人との関係を壊すなら、そこで終わりです。一時的なこと（木）をみるのではなく全体（森）を見て行きましょう。

私たちがしななければいけないことは、神様の時を待ち戦略を練って神様が行けといわれるときすぐ行ける様にすることです。そのためにいつもあなたの証を持っていつでも証できるようにしておきましょう。失敗するのは自分の力でしている証拠ですから神様を見上げ二度と失敗を繰り返さないように、わなにかからないようにしましょう。自分たちの行動がどうであるか今が肝心です。すべてを備えて出て行きましょう。

最後にもう一度。神様の助けは必ずあります！！ですから救われた恵みという神様の武器を持って、主と共に歩みましょう。（要約者：金光 瞳）